

第2章 志布志市における自殺の現状

1 各種統計データから見る志布志市の自殺の現状

本市の自殺の現状を把握するために、各種統計データを全国や鹿児島県と比較して分析しました。本市の数値は全国や鹿児島県に比べ増減が大きくなる傾向がみられ、これは母数となる人口が少ないことが一因と言えます。そのため、一時点の数値で判断することなく、5年集計を活用したり、国・県の数値を踏まえて現状を分析しています。

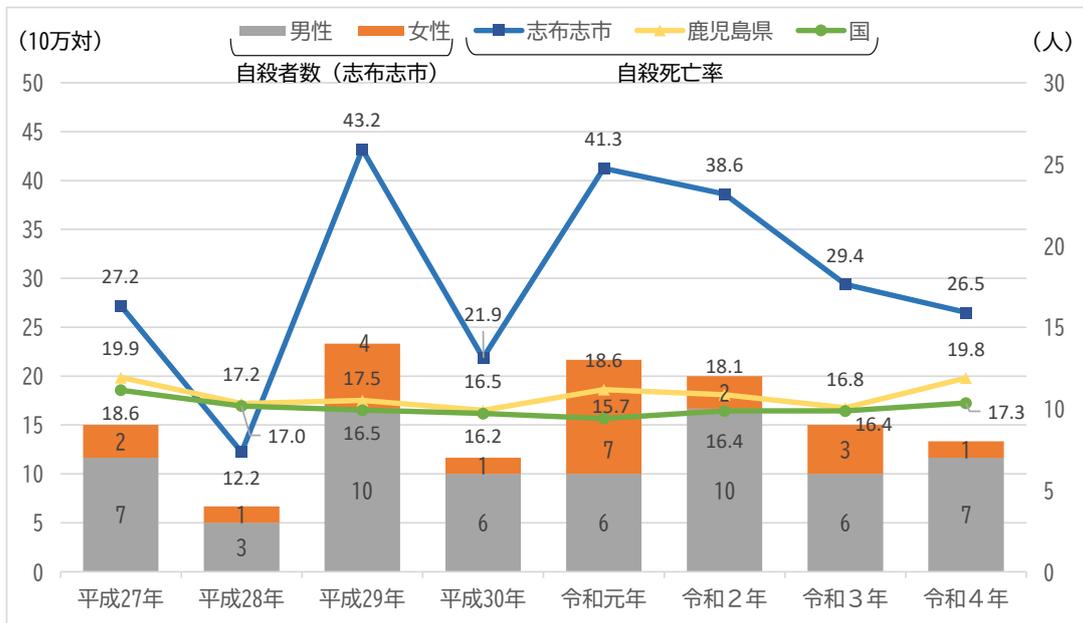
(1) 自殺者数及び自殺死亡率の状況

本市の平成30年から令和4年までの5年間に自殺で亡くなった人の数は49人（年間平均9.8人）、自殺死亡率の平均は31.5であり、鹿児島県（17.4）及び国（16.4）よりも高くなっています。

全国における自殺者数は、令和元年までは減少傾向で推移していましたが、令和2年以降増加に転じ高止まりの状況となっています。鹿児島県における自殺者数は、令和4年は318人であり、令和3年より47人増加しています。

また、平成27年から令和4年の自殺者の性別の年次推移をみると、令和元年以外において女性より男性が多くなっています。

図表1：自殺者数と自殺死亡率の推移（平成27～令和4年）



■全国、鹿児島県、志布志市の自殺者数の推移

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
志布志市	9	4	14	7	13	12	9	8
鹿児島県	336	289	292	273	306	295	271	318
国	23,806	21,703	21,127	20,668	19,974	20,907	20,820	21,723

資料：地域の自殺の基礎資料（厚生労働省）・自殺統計（警察庁）

(2) 自殺者の性・年代別の状況

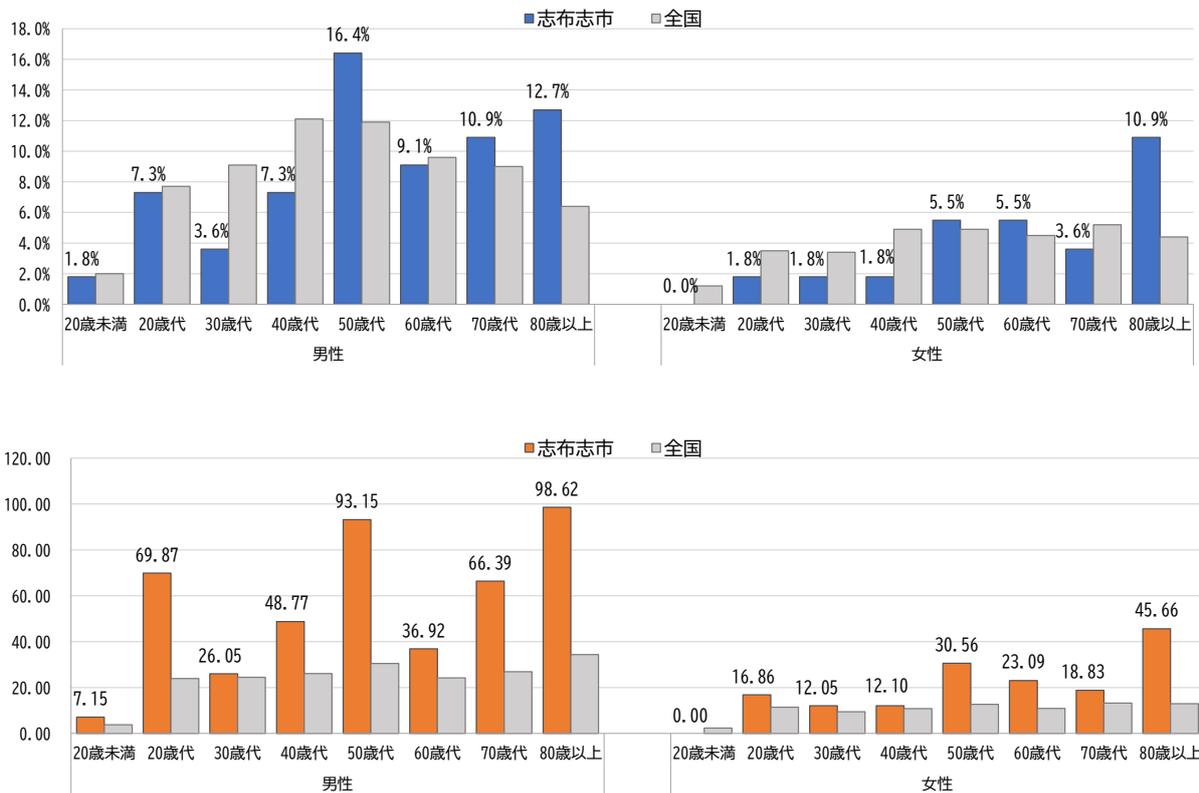
性・年代別の自殺者割合をみると、男性では50歳代と80歳以上の割合が高くなっており、女性では80歳以上の割合が高くなっています。

また、性・年代別の平均自殺死亡率（10万対）をみると、80歳以上の男性が98.62と最も高く、全国との差も大きくなっています。

図表2：性・年代別の自殺者割合（平成29～令和3年集計）

年齢区分	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不詳	合計
男性	1	4	2	4	9	5	6	7	0	38
女性	0	1	1	1	3	3	2	6	0	17
合計	1	5	3	5	12	8	8	13	0	55

図表3：性・年代別の割合（平成29～令和3年集計）



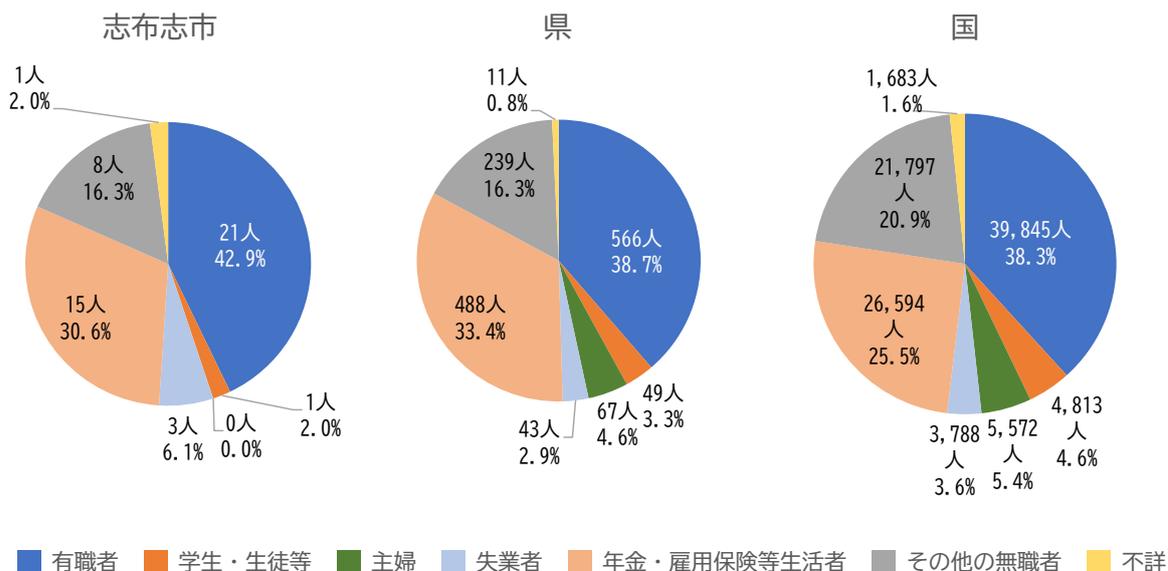
資料：地域自殺実態プロファイル 2022 年版

(3) 自殺者の職業別の状況

平成30年から令和4年の自殺者の職業別の状況を見ると、無職者の割合が55.0%と最も高くなっています。その内訳をみると「年金・雇用保険等生活者」の割合が30.6%と多い状況です。

また、「有職者」の割合は42.9%となり、全国・鹿児島県より高くなっています。

図表4：職業別自殺者数の割合（平成30～令和4年集計）



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」（自殺日・住居地）

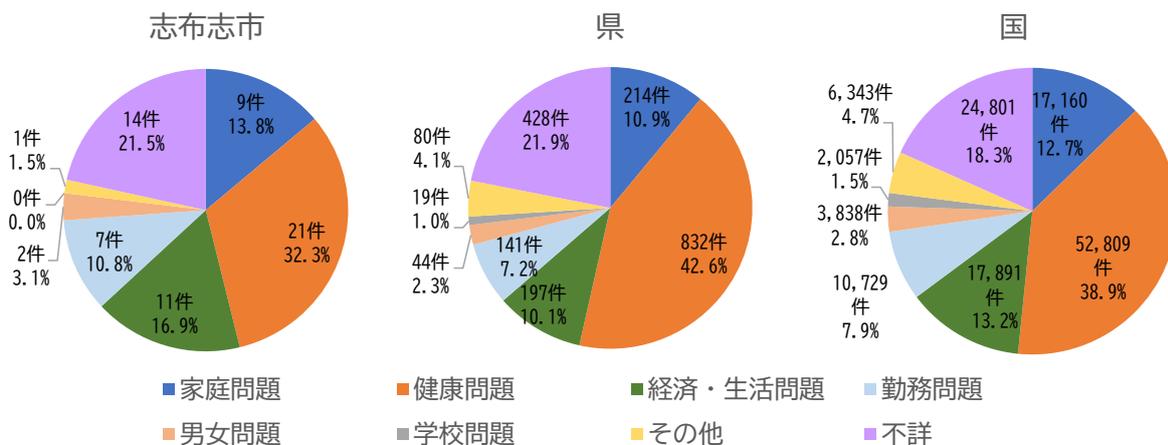


(4) 自殺者の原因・動機の状況

平成30年から令和4年の自殺者の原因・動機の状況をみると、「健康問題」の割合が32.3%と最も高く、次いで「経済・生活問題」、「家庭問題」、「勤務問題」の順となっています。この順番は、県、全国と同様の傾向となっています。

社会が多様化する中で、地域生活の現場で起きる問題は複雑化、複合化しており、このような問題が最も深刻化した時に自殺は起きる可能性が高くなります。「平均4つの要因（問題）が連鎖する中で起きている」とする調査もあります。

図表5：原因・動機別自殺者数の割合（平成30～令和4年集計）

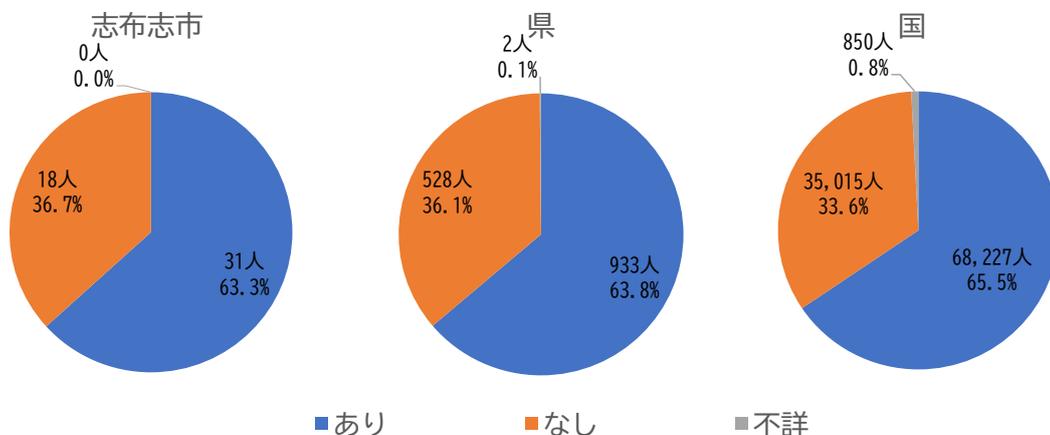


資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」（自殺日・住居地）

(5) 自殺者の同居人の状況

平成30年から令和4年の自殺者の同居人の状況をみると、「あり」の割合が63.3%となっています。

図表6：同居人の有無（平成30～令和4年集計）



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」（自殺日・住居地）

第2章 志布志市における自殺の現状

(6) 本市の自殺の特徴（2017～2021年合計）＜特別集計（自殺日・住居地）＞

いのち支える自殺対策推進センターのプロファイルによって以下の5区分が抽出されました。

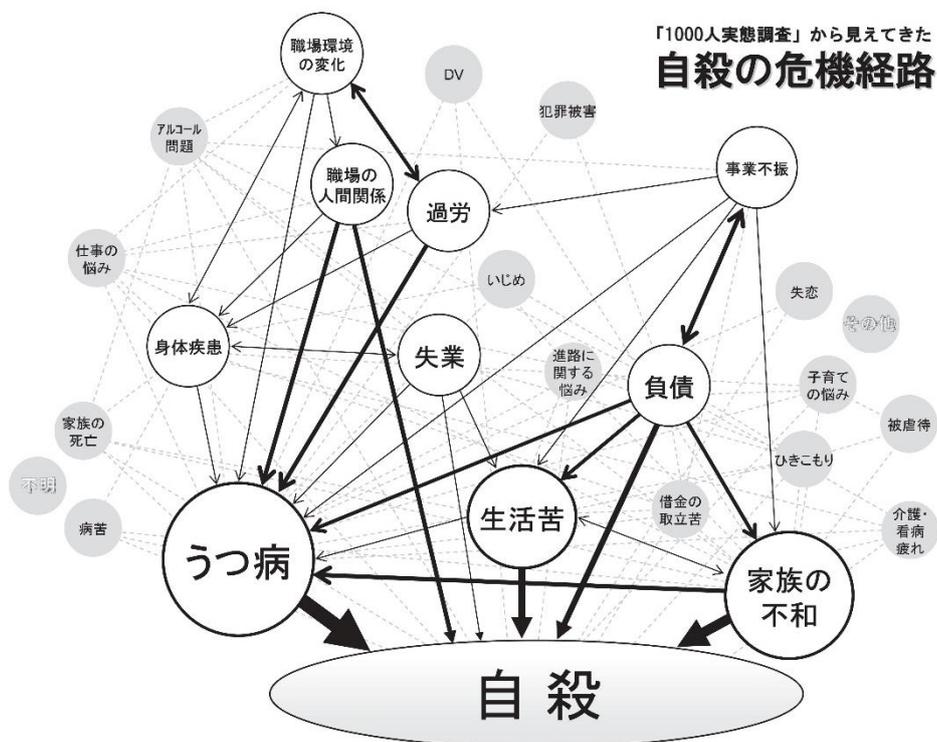
自殺者の特性上位5区分	自殺者数 (5年計)	割合	自殺死亡率* (10万対)	背景にある主な自殺の危機経路**
1位: 男性 60歳以上無職同居	7	12.7%	61.2	失業(退職)→生活苦+介護の悩み (疲れ)+身体疾患→自殺
2位: 男性 40～59歳有職同居	6	10.9%	49.8	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み +仕事の失敗→うつ状態→自殺
3位: 女性 60歳以上無職同居	6	10.9%	36.5	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
4位: 男性 60歳以上無職独居	5	9.1%	151.8	失業(退職)+死別・離別→うつ状態 →将来生活への悲観→自殺
5位: 男性 40～59歳無職独居	3	5.5%	831.4	失業→生活苦→借金→うつ状態→自殺

資料：地域自殺実態プロファイル2022年版
警察庁自殺統計原票データを厚生労働省（自殺対策推進室）にて特別集計

・区分の順位は自殺者数の多い順で、自殺者数が同数の場合は自殺死亡率の高い順とした。

* 自殺死亡率の算出に用いた人口（母数）は、総務省「令和2年国勢調査」就業状態等基本集計を基にJSCPにて推計したもの。

** 「背景にある主な自殺の危機経路」は、ライフリンク「自殺実態白書2013」を参考に推定したもの（詳細は付表の参考表1参照）。自殺者の特性別に見て代表的と考えられる経路の一例を示しており、記載の経路が唯一のものではないことに留意いただきたい。



資料：※自殺実態白書2013（NPO法人ライフリンク発行）

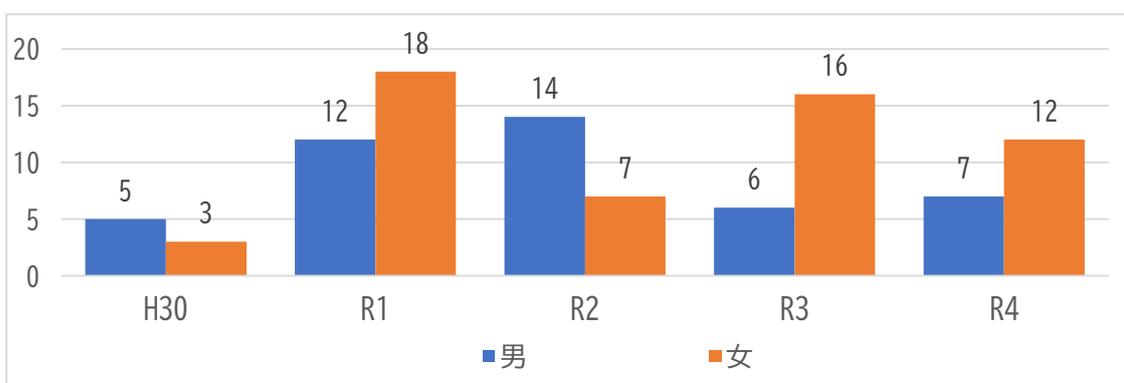
(7) 自損行為に伴う救急活動の状況

① 志布志市における自損行為件数 (単位：件)

近年の本市における自損行為件数は女性が多くなっています。

	H30	R1	R2	R3	R4
男	5	12	14	6	7
女	3	18	7	16	12
不明	0	0	0	0	0
合計	8	30	21	22	19

(提供：曾於地区消防組合)

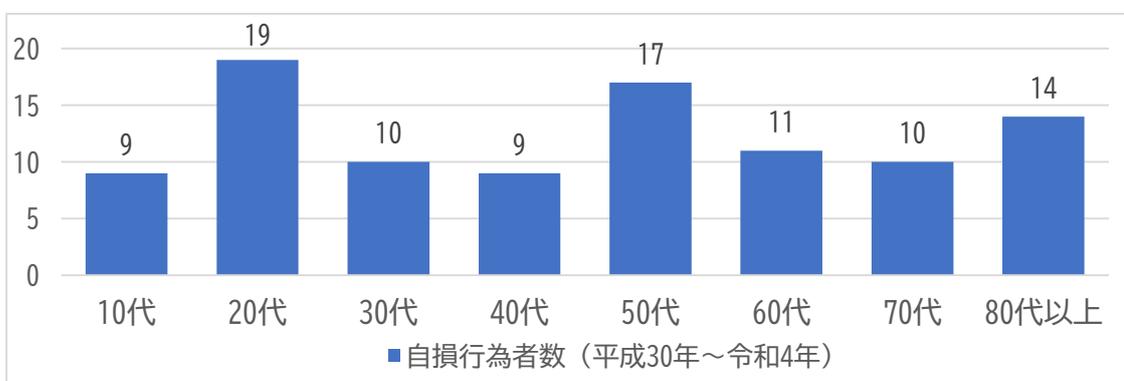


② 志布志市における年代別自損行為者数 (平成30年～令和4年) (単位：人)

本市における自殺者数は50代、80代以上が多いが、20代の自損行為件数も多く、若者への対策が必要です。

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	年齢不詳
平成30～令和4年	9	19	10	9	17	11	10	14	1

(提供：曾於地区消防組合)



2 住民意識調査結果

(1) 調査の概要

①住民（18歳以上）

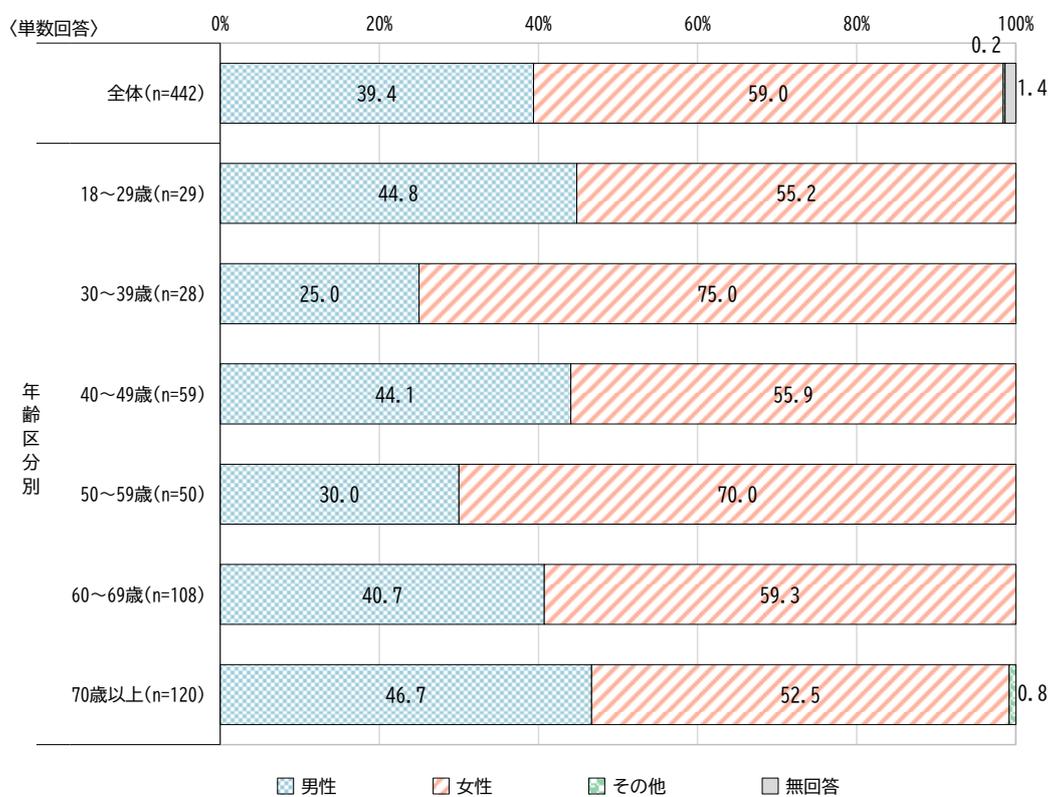
調査の目的	市民のこころの健康に関する現状の把握、自殺に対する考え方を明らかにすることで、誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指した第2次志布志市自殺対策計画の策定や今後の自殺対策に活かすこと
調査の対象	志布志市内在住で18歳以上の人1,500人 (住民基本台帳から無作為抽出)
調査方法	郵送配布、郵送あるいはインターネット回収による調査
調査期間	令和5年7月～8月
回収状況	配布数：1,500件 回収数：442件（回収率：29.5%）

②小・中学生

調査の目的	市内の小中学生の日常生活の様子や考えを把握することで、誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指した第2次志布志市自殺対策計画の策定や今後の自殺対策に活かすため。
調査の対象	志布志市立小・中学校に在籍する 小学6年生：309名 中学3年生：301名
調査方法	学校での配布・回収
調査期間	令和5年7月
回収状況	合計516件（84.6%） (内訳) 小学6年生：264名、中学3年生：252名

(2) 住民（18歳以上）の主な調査結果

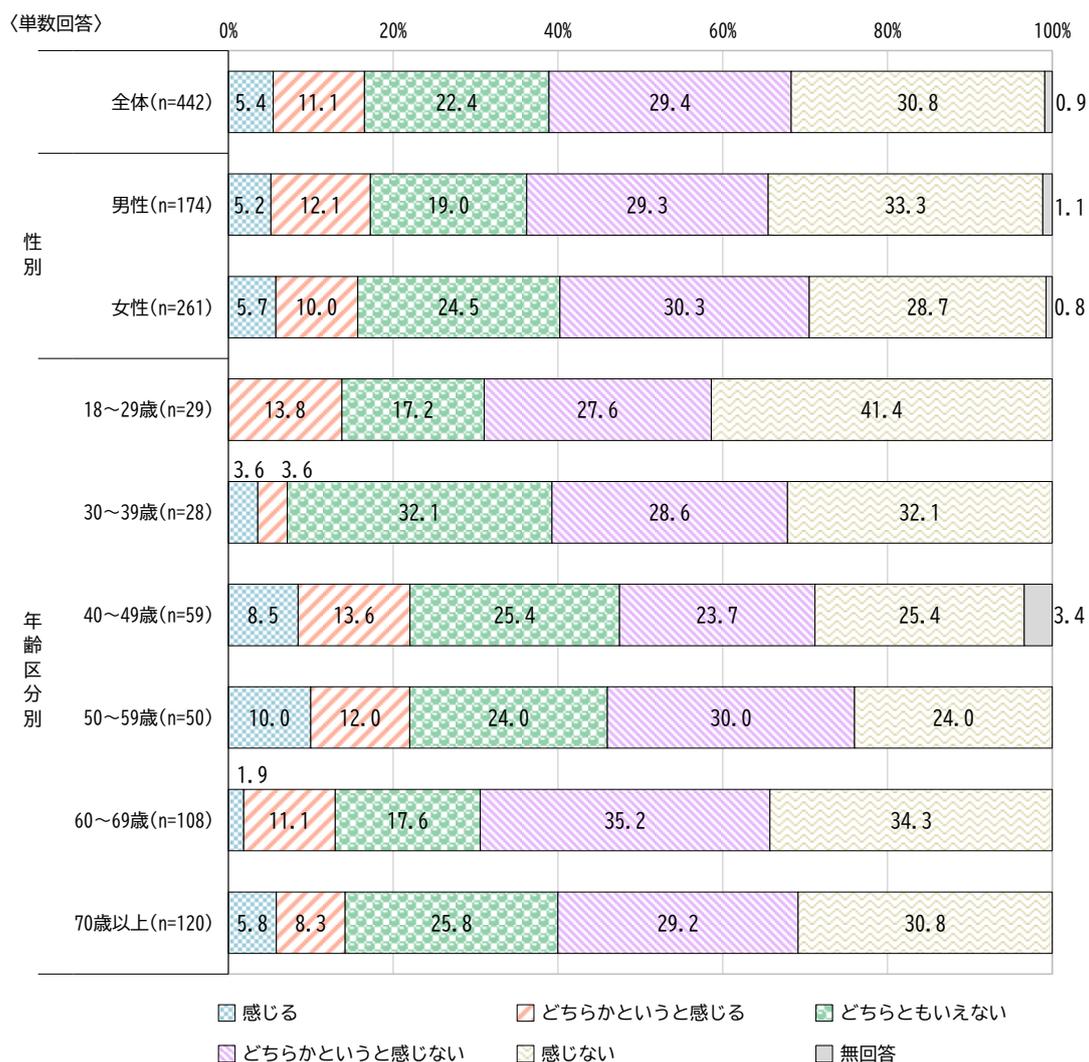
■回答者（18歳以上の市民）



① 現在、悩みや苦勞、ストレス、不満を感じている人の状況

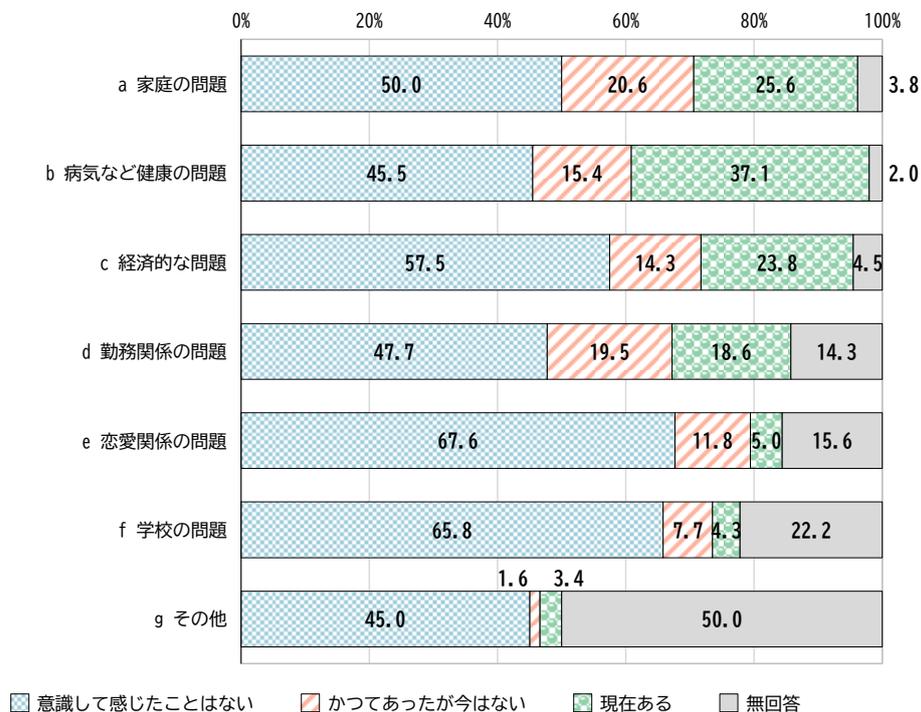
- ◇ 普段の生活で孤独を感じている人の割合は、16.5%となっています。
- ◇ 現在、悩みやストレス等の問題を抱えている人の内容は「病気など健康の問題」「家庭の問題」の割合が高くなっています。
- ◇ 悩みやストレスを感じた時に、「助けを求めたり、誰かに相談したいと思う」人の割合は6割に近くなっています。

■ 普段の生活で孤独を感じること



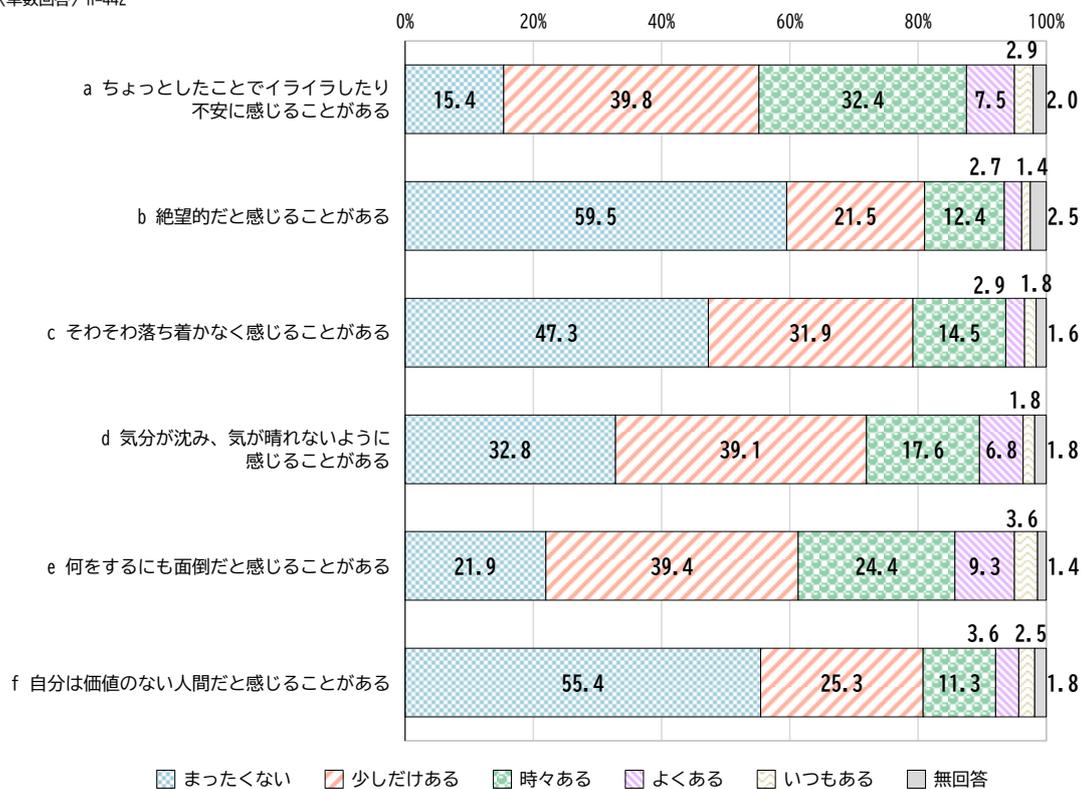
■悩みや苦勞、ストレス、不満を感じること

〈単数回答〉n=442



■日々の生活の中で感じること

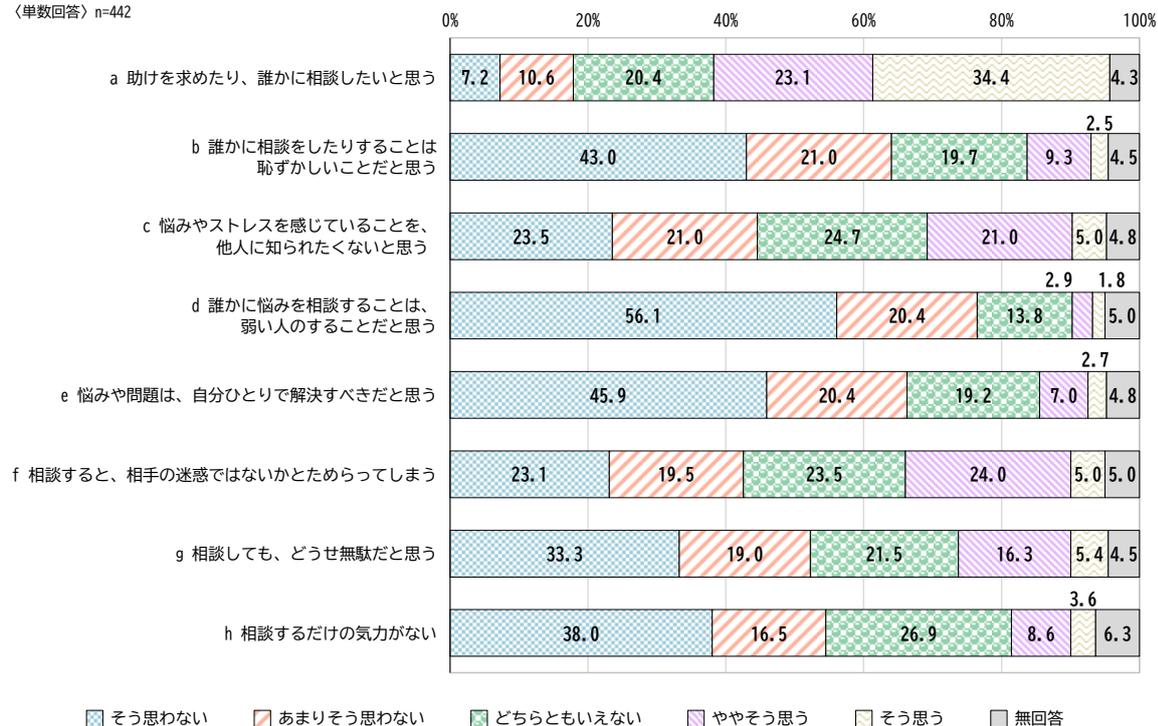
〈単数回答〉n=442



第2章 志布志市における自殺の現状

■悩みやストレスを感じた時の考え方

〈単数回答〉n=442

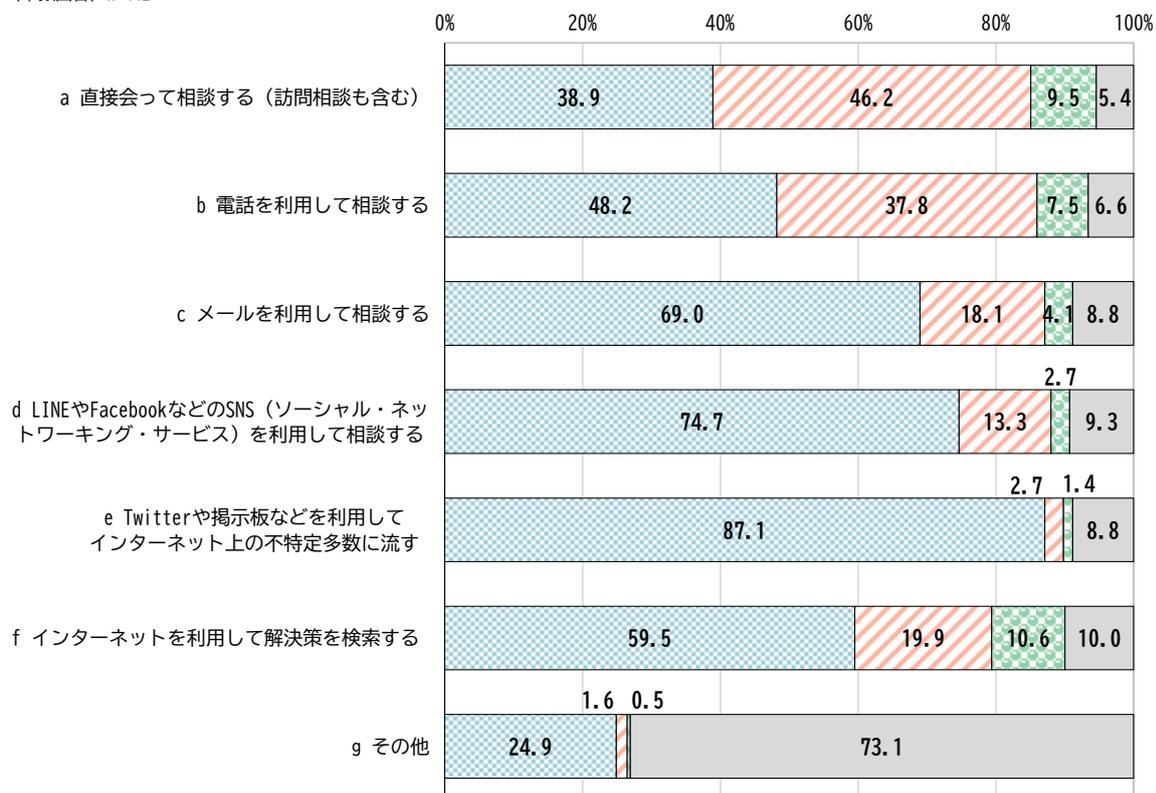


② 相談について

◇相談方法については「直接会って相談する」と「電話を利用して相談する」の割合が高くなっています。

■相談方法

〈単数回答〉n=442

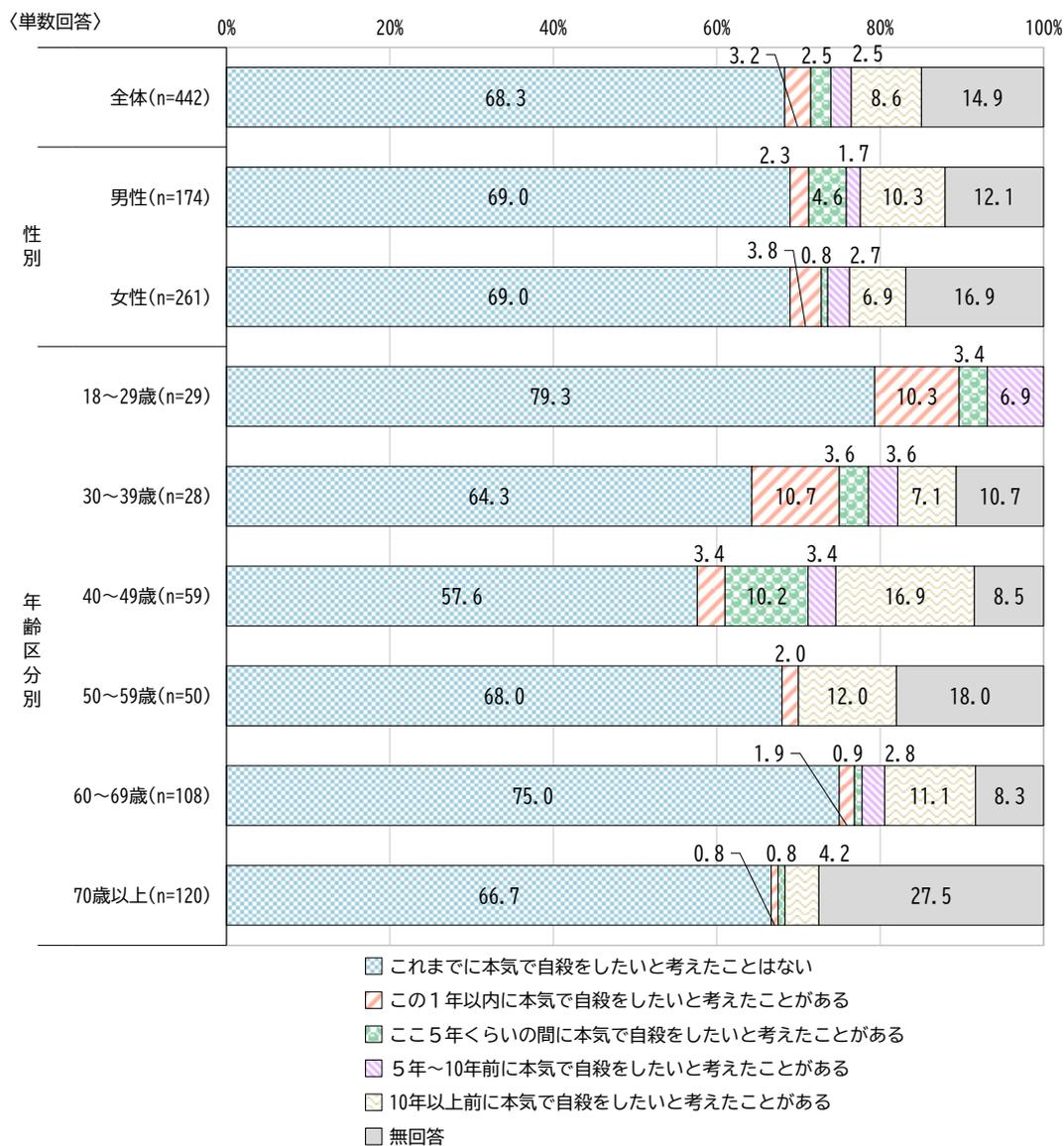


■ 利用しないと思う
 ■ 実際にしたことはないが利用すると思う
 ■ 利用したことがある
 ■ 無回答

③ 「本気で自殺を考えたことがある」人の状況

- ◇これまで「本気で自殺を考えたことがある人」は、16.8%となっています。
- ◇性別では、「男性」(18.9%)が「女性」(14.2%)を4.7ポイント上回っています。年代別にみると、30～40代の割合が高くなっています。

■本気で自殺を考えたことがあるか



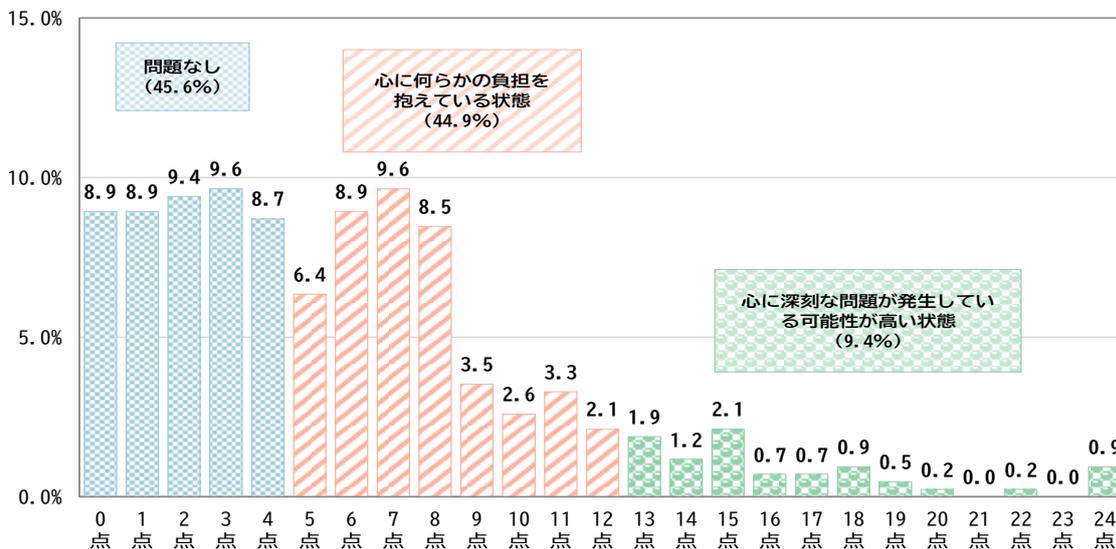
④ 心の健康に不安を感じている人について

心の健康の度合い（K6※得点）で、心の健康が不調な人（5点以上）の視点で分析しました。

※K6とは
 米国のKesslerらによって、うつ病・不安障がいなどの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発された指標。
 「神経過敏だと感じることもある」「絶望的だと感じることもある」「そわそわ落ち着かなく感じることもある」「気分が沈み、気が晴れないように感じることもある」「何をするにも面倒だと感じることもある」「自分は価値のない人間だと感じることもある」の6項目ごとに「まったくない」0点、「少しだけある」1点、「時々ある」2点、「よくある」3点、「いつも感じている」4点を与え、合計点を算出したもの。
 合計点数が高いほど、精神的な問題がより重い可能性があると考えられている。
 出典：厚生労働省

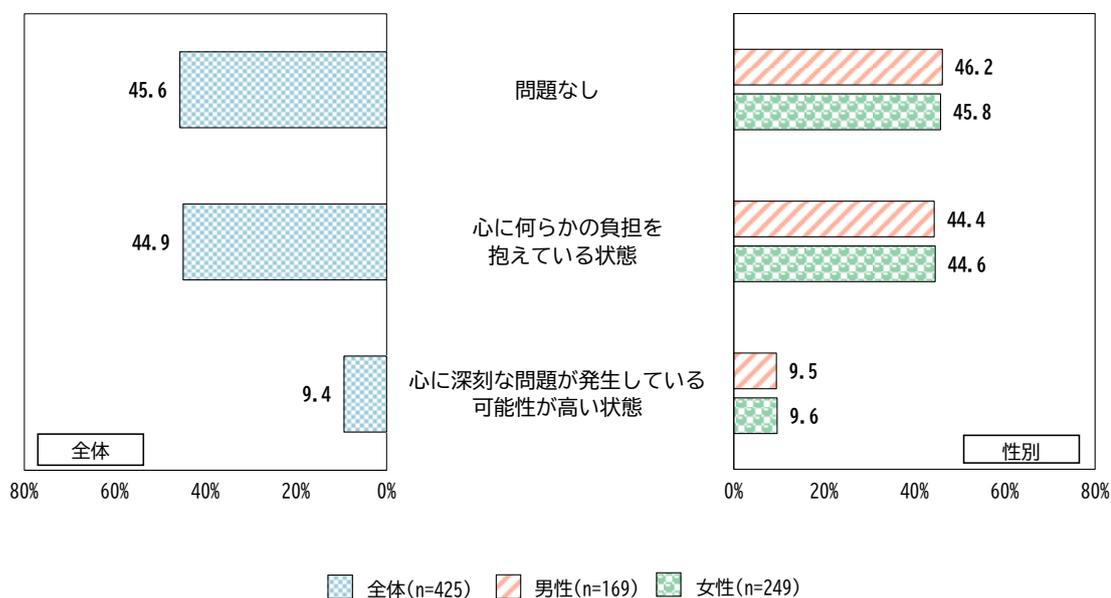
- ◇ K6得点の判定の結果、『心に何らかの負担を抱えている状態』の割合が44.9%、『心に深刻な問題が発生している可能性が高い状態』が9.4%となっています。
- ◇ 『心に何らかの負担を抱えている状態』及び『心に深刻な問題が発生している可能性が高い状態』は、性別によって大きな違いは見られませんでした。
- ◇ 「18～29歳」、「30～39歳」において『心に深刻な問題が発生している可能性が高い状態』が2割超となり他の年代より高くなっています。
- ◇ 『家計の余裕がない』人の『心に何らかの負担を抱えている状態』と『心に深刻な問題が発生している可能性が高い状態』の割合の合計が6割を超えています。
- ◇ 『健康状態がよくない』人の『心に何らかの負担を抱えている状態』、『心に深刻な問題が発生している可能性が高い状態』の割合の合計が8割を超えています。

■ K6得点

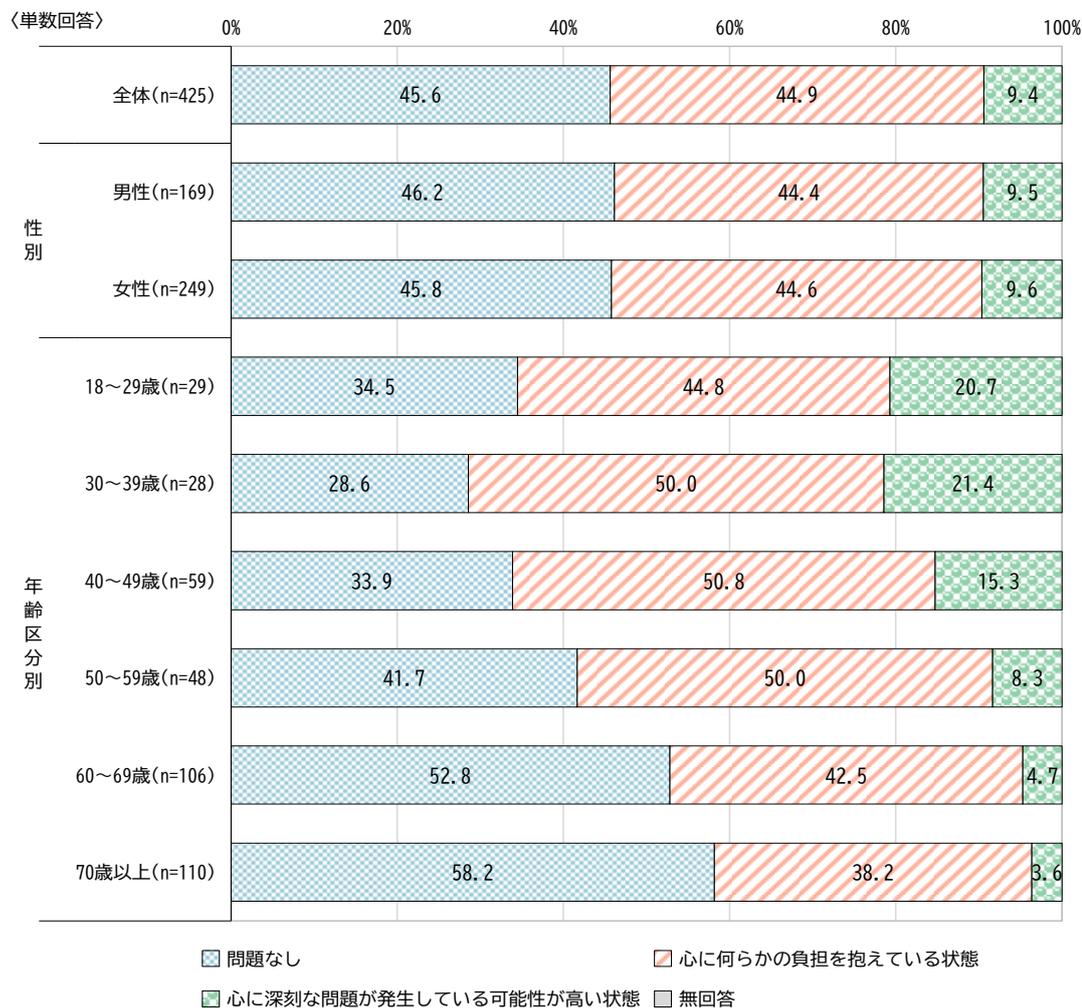


第2章 志布志市における自殺の現状

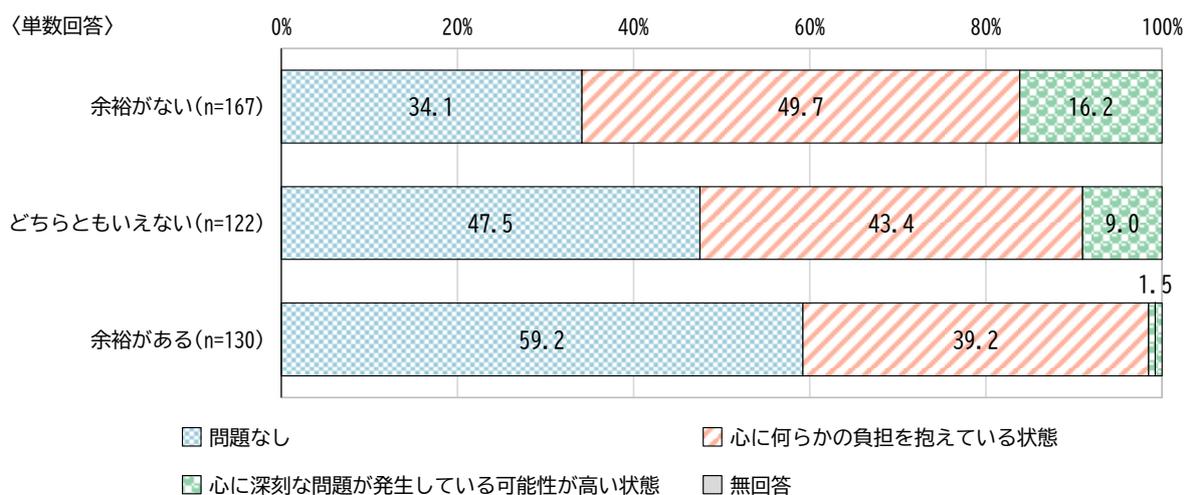
■ K 6 得点の分類（性別）



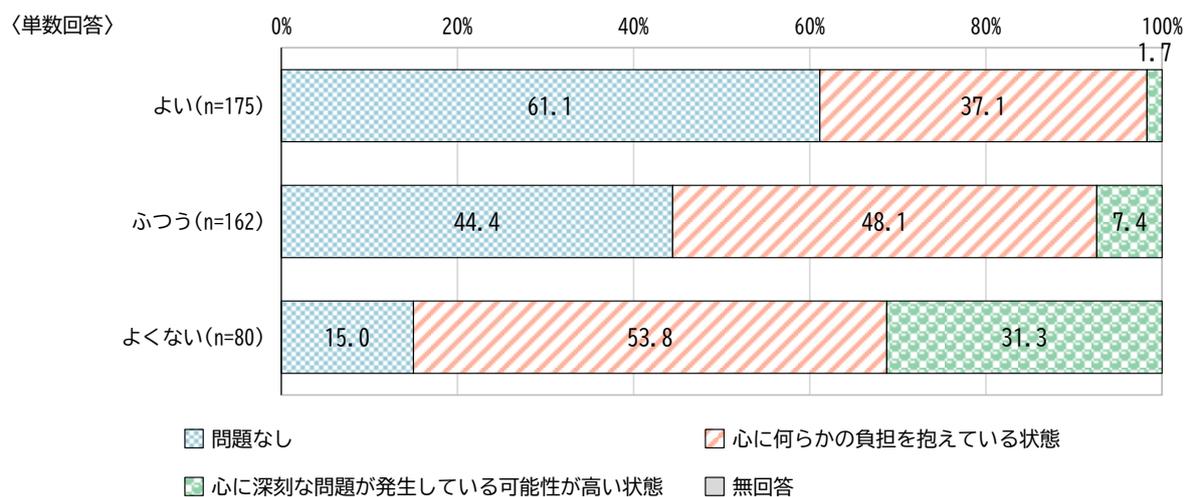
■ K 6 得点の分類（性・年代別）



■ K 6 得点の分類（家計の余裕別）



■ K 6 得点の分類（健康状態別）



(2) 小・中学生の主な調査結果

■回答者



① 自分のことについて

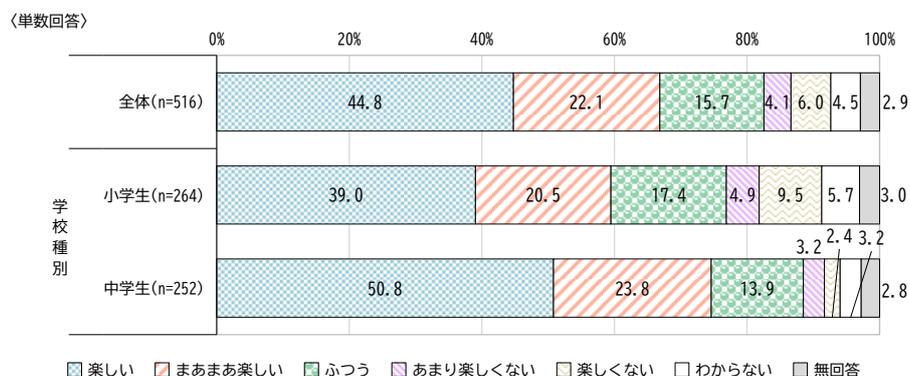
◇自分のことが好きかについては、「はい」が38.2%、「いいえ」が17.1%、「わからない」が44.0%となっています。

◇学校に行くことについて、「楽しい」が44.8%と最も高く、次いで、「まあまあ楽しい」の22.1%、「ふつう」の15.7%となっています。

■自分のことが好きか



■学校に行くことが楽しいか

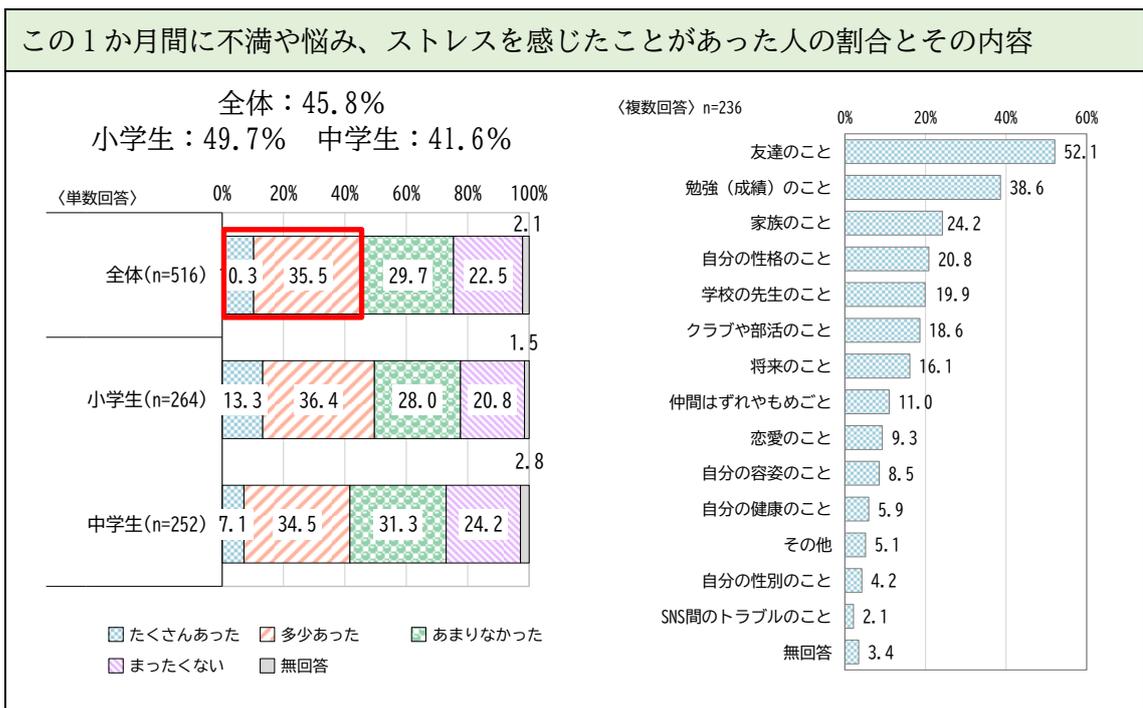


② 休養について

- ◇睡眠時間が7時間未満の中学生は6割程度となり、5割近くが睡眠不足を感じていると回答しています。
- ◇睡眠不足の理由として「なんとなく夜更かししてしまう」、「寝たいのになかなか眠れない」の割合が4割を超え高くなっています。

睡眠の状況		小学生	中学生
平均睡眠時間が7時間未満の割合		27.3%	61.1%
平日の夜11時以降に就寝する割合		23.5%	63.9%
睡眠不足を感じている割合		36.0%	48.0%
睡眠不足の理由	なんとなく夜更かししてしまう	45.3%	40.5%
	宿題や部活等	29.5%	50.4%
	寝たいのになかなか眠れない	58.9%	38.0%

③ 不満やストレスについて



- ◇睡眠不足を感じている人のうち、この1か月間に不満や悩み、ストレスを感じたことがあった割合は65.7%となっています。

睡眠不足×ストレス	睡眠不足を感じている	睡眠不足を感じていない
この1か月間に不満や悩み、ストレスを感じたことがあった人の割合	65.7%	31.8%

第2章 志布志市における自殺の現状

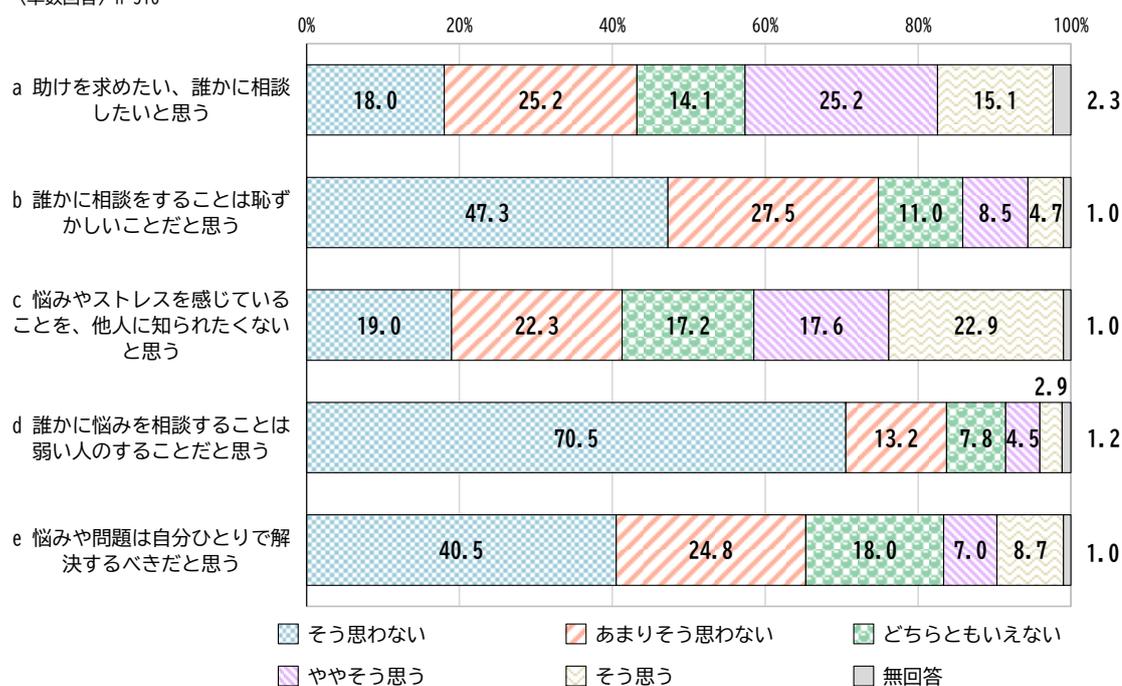
不満や悩み、ストレスの解消法	小学生	中学生
「じっと耐える」と回答した人の割合	18.2%	16.3%
「解消法がわからない」と回答した人の割合	8.3%	6.0%
「何もしない」と回答した人の割合	11.4%	8.7%

④ 相談について

◇悩みやストレスを「誰かに相談をしたりすることは恥ずかしいこと」とか「誰かに悩みを相談することは、弱い人のすること」と考える人は少ない。そう思う人の割合は小学生の方が中学生より多くなっています。

◇悩みごとがあるとき、家族に「相談しない」人の割合は、女兒（25.2%）より男児（32.8%）のほうが高くなっています。

〈単数回答〉n=516



	小学生	中学生
「誰かに相談をしたりすることは恥ずかしいこと」と考える人の割合	16.3%	9.9%
「誰かに悩みを相談することは、弱い人のすること」と考える人の割合	10.2%	4.4%
家族以外に相談できる人は誰もいない人の割合	15.5%	9.9%
悩みごとがあるとき、家族に「相談しない」人の割合	27.3%	30.2%